

鹿山会は、皆さまの会費を原資に運営されています。活動の充実に向け、会費納入にご理解とご協力をお願いいたします。

- (1) 『ミスタージャイアンツ 長嶋茂雄お別れの会』に参列して
- (2) 長嶋茂雄写真展が開催されています 12月7日(日)まで 佐倉市立美術館
- (3) デフリンピック・オリエンテーリング 木村修選手競技結果報告
- (4) 佐倉市の社会実験「タマルバ」に将棋部が参戦!

(1)『ミスタージャイアンツ長嶋茂雄 お別れの会』に参列して 鹿山会会長 村山秀明



令和7年11月21日(金)、東京ドームで開催された「ミスタージャイアンツ 長嶋茂雄お別れの会」一般の部に、私と大竹副会長で参列いたしました。

午後3時開場の1時間前から東京ドームは長蛇の列に包まれ、開場が30分繰り上げられました。午前中の関係者の部に約9,600人、午後

後の一般の部に約2万2,800人の計3万2,400人が来場したとのことです。

長嶋さんの一挙手一投足に憧れた世代から、現役時代を知らない若い世代まで、多くの方々が参列されていました。長嶋さんは本当に世代を超えた国民的ヒーローであったと、改めて感じさせられました。

ドーム内には巨大な祭壇が設けられ、ガーベラ、カーネーション、ヒマワリなど長嶋さんの明るい人柄をしのばせる花が、背番号にちなんで3万3333本飾られ、笑顔のミスター、現役時代のユニホーム姿のミスターの大きな写真が掲げられていました。

二重三重の人垣で、なかなか祭壇前にたどり着けず、また係員の誘導で本当に僅かな時間でしたが、長嶋さんの遺影に心からのご冥福を祈り、また、偉大な先輩に精いっぱい感謝の気持ちを捧げてまいりました。

ミスタージャイアンツ長嶋茂雄さんは、これまでも、そしてこれからも母校の誇りであり続けます。



(2) あれほど生きた三振というのなかった

『長嶋茂雄写真展…記憶から未来へ』が開催されています 12月7日(日)まで 佐倉市立美術館



期日ー2025.11.15[土]ー12.7[日] 主催:佐倉市

開館時間ー10時～18時(入館17時30分まで)

休館日ー月曜日[ただし、11/24[月]・振休は開館、11/25[日]は休館]

入場無料 [問]佐倉市新町210番地 佐倉市立美術館 043-485-7851

◎内容ー写真点数:約100点、資料:約10点 数々の名言を展示 等



【掲示されている長嶋語録から(一部)】
 ▶連続4三振…悔しかったさ、そりやもう最後の頃なんか、カッカと頭に血がのぼって、でも、あれほどいい三振もなかった。あれほど生きた三振というのなかった。
 ▶勝負の世界に身を置く者にとって最大の配信行為はギブアップです。
 ▶一寸先は闇の勝負の世界では、なにが起こるかわからない。ギリギリの限界に耐えるために技術と精神をみがく。
 ▶スポーツの根幹はスピードであり、スポーツの面白さは、そのスピードから生まれるスリルである。
 ▶終わったことは忘れろ、今と明日のことだけ考えろ。



【追悼番組】『ありがとう 長嶋茂雄さん ～佐倉が生んだミスタープロ野球～ (2025/09/29)』 検索 15分番組*画像はリンクしていません

*さくら動画配信 (佐倉市公式チャンネル)

(3) デフリンピック・オリエンテーリング 木村修選手(昭 55 年卒)競技結果報告

聴覚障害者による国際スポーツ大会「デフリンピック東京大会」で、酒々井町出身の木村修選手(昭 55 年卒・63 才)が出場するオリエンテーリング(男子ミドルディスタンス)が、11 月 20 日伊豆大島裏砂漠で行われました。

「裏砂漠」は、火山の噴火で溶岩の粒や灰が降り積もってできた地帯や藪の中を巡る難所で知られ、同じような景色に囲まれ、地形の変化が少なくコースが見極めにくい砂漠や岩場、森や藪の中、険しい道を、コンパスと地図を頼りに、設置されたコントロール(指定地点)を通過してゴールの大島温泉ホテルを目指しました。とても難しいコースだったとのこと。

木村選手は、1 時間 34 分 41 秒・18 位で見事完走、時間内にゴールしました。

応援、ありがとうございました。

※2 時間以内に走破したのは 24 選手で、

走破した日本人 3 選手中 2 番目の記録でした。

※9 選手が時間内には走破できませんでした。24 位の選手記録 1:59:58

※木村選手が出場予定の 23 日開催のオリエンテーリング男子リレーは、若手に任せて後方支援とのことで、堤選手、児玉選手、小嶋選手がエントリーし、2 時間 51 分 42 秒で 6 位でした。

木村選手を全力応援！～ありがとう、そしてお疲れさまでした！～ 昭 55 年卒3年H組一同

11 月 20 日ミドル競技の前日は、「頑張って！」「楽しんで！」「普段の力が出せますように！」「応援してる！」とクラスメートからメッセージを送り、当日は速報でチェックしながら応援しました。

競技を終え「終わりました。私はミスを何度かした結果、18 位とちょっと残念。伊豆大島は最難関と言われるほど手強いんですが、技術的には自信のあった私でも、ちょっと気を抜くと現在地を見失います。」と木村選手からの報告。日本の代表として、完走も難しいと言われる最難関コースに挑み結果を出す木村選手、H 組の誇りです。

クラスメートは皆「お疲れ様！」と心から労いのメッセージを送りました。

23 日のリレーは若手に任せて後方支援に回るとの連絡があり、選手兼コーチとして活動している木村選手の力が、多方面で発揮されていることが分かりました。

クラスからは実際に大島まで駆けつけて応援した仲間もいます。同じ教室で学んだ木村選手のデフリンピック出場は、私たちクラスメートにも大きな刺激をくれました。

木村選手、ありがとう、そしてお疲れさまでした！



オリエンテーリングは、地図に示されたチェックポイントを順序通りに巡る競技で、デフ大会でもルールは聴者と同じ。競技会場の下見は禁止されており、選手らは、試合直前に初めて渡される競技用の地図とコンパスを手に、時間差でスタートしゴールするまでのタイムを競う。道順は自由で、どこを通り、いかに速く進めるかが力の見せどころだ。



(4) 11/16 佐倉市の社会実験「タマルバ」～あそびのこみち～に母校将棋部が参戦！

「佐倉城下町エリアビジョン」に基づき、公共空間や空き店舗等を活用した目的地づくり、回遊性向上を目的とした社会実験に将棋部が参戦し、来場者と将棋でコミュニケーションを図りました。

